

## 心つないで

No.58

発行

2013年11月25日

東日本大震災

ろっこう医療生協・対策本部〈本部長・金丸正樹〉

(ろっこう医療生協・本部内 TEL 078-802-3424)

## 第7陣・森本専務代行、豊山看護師(東雲診)の大船渡報告

## 腰痛の通院にタクシーで

◎ 第7陣は上記2人が18日出発し、21日までの4日間行動しました。

・初日19日は杉下仮設に。腰痛でコタツで横になっていたWさん。自宅の2階まで津波の水がきて、裏山の神社に駆け上がって難を逃れたそう。築150年以上の木造の自宅は気仙大工さんにしか補修してもらえず、この年末にやっと補修が終わり来春には自宅に戻れると。腰痛で大船渡の整形外科にタクシーで通院されています。腰の調子が良ければ講習会に参加して下さるそうです。【写真・右】



雪化粧、みぞれ雨、冷たい風・・・でも

「たくさん参加がありますように」  
お誘いに全力



・20日午前午後ノ入仮設を訪問。神戸大学の学生ボランティアが作成したイスとテーブルで雑談されていた、お元気な84才と91才の女性からお話を伺いました。お二人とも若い頃は、近くのセメント工場に勤め、毎日50kgのセメント袋を運んでいたそうで「若い頃力仕事してたから、今も健康で医者に行ったことない」とのこと。【写真・左】

・後ノ入仮設は海岸線から1キロ以上離れた土地ですが、そこにも川伝いに津波が押し寄せてきました。その記録をとどめる碑が建っています。【写真・右】



## 千川地震と東日本大震災に被災

◎20日午後ノ轆轤石(ろくろいし)仮設を訪問。干し柿を吊していたMさん親娘とお話しました。お母さんは85才。チリ地震で2軒あった家の1軒を流され、東日本大震災でもう1軒も流され「持って逃げた遺影と位牌以外は何も残らなかった」と。とても美味しい干し柿をいただきました。【写真・下】



## ●行動・余話●

◎後ノ入仮設を訪問したとき、ふと川に目をやると、バシャバシャと水しぶきが。よく見ると大きな魚が何匹も川をさかのぼっています。「まさか鮭の遡上!？」と思いましたが、信じられませんでした。その後訪問した轆轤石仮設で聞いてみると、やっぱり鮭とのこと。「昔は川でとって食べた。今はとると捕まるよ」とのこと。大船渡の自然は偉大です。



【写真上はイメージ】